

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 2年 4月 24日

公表: 令和 2年 6月 1日

事業所名: コトモ西尾住崎校

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1		フロア区画ごとに遊び方を限定している。	概ね適切。しかし、遊び方によって密集するので、更にすみわけが必要。
	2	職員の配置数は適切である	8	1		出勤職員数を考慮している。	希望休の重複によっては必要最低限人数となることもあるため、調節をしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3		学習室への入り口をスロープ状にしている。	児童の行動範囲に障害物が置かれていないかを再点検していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3	3		パート職員をはじめ、日頃から意見を聞いていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	2		保護者等向け評価表を職員間で共有し、改善案を話し合う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	4		『不明』の回答がなくなるよう、会社の取り組みが分かるように校舎会議等で紹介していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		2		研修の募集があれば職員にその都度、紹介していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		1	定期的なアセスメントが出来るよう、電話などその方法を工夫している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	2		運動能力や精神能力を向上させるツールを備品として更に充実させていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	2	活動内容を決定していく過程で職員から意見を聞いて	幅広い視野で活動を立案できるよう、全職員から意見を求めていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		1		幅広い視野で活動を立案できるよう、全職員から意見を求めていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	1	時間に見合った活動内容にしている。	利用時間が長い事を生かし、年齢に応じた内容になるよう工夫する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	2		自由時間にできる事も視野に入れた計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	1	活動時の職員配置を明示している。	行動に注意が必要な児童には『担当』を配置する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	1		その日に出勤していない職員にも情報が行き渡るよう、ボードなどを活用して共有していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2	1		校舎会議時間を活用していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	2	2			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 2年 4月 24日

公表: 令和 2年 6月 1日

事業所名: ココトモ西尾住崎校

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		2		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	1	4		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2	4		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	4		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1		必要に応じて情報を得られている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	2		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	4		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		2		『不明』の回答がなくなるよう、職員にも紹介していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	2	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		苦情があった場合には、その日のうちに適切に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1			
	35	個人情報に十分注意している	8		1		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		3		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	2		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 2年 4月 24日

公表: 令和 2年 6月 1日

事業所名: コトモ西尾住崎校

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	5	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	2			あらゆる場合を想定し、定期的に訓練を続けていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	2			研修の募集があれば職員にその都度、紹介していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1	2		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	3		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	2			